

## 奥会津の里山三大佳人

佳人といっても残念ながら女性のことではありません。私は密かに奥会津の里山で誰にでも近くで見ることができるヒメサユリ・コシジシモツケソウ・ネジバナを三大佳人と呼んでいます。いずれも初夏から真夏にかけて美しいピンクの花を咲かせます。どれもこれも子供のころからなじんでいますから、さほど気にも留めず、それでも美しい花がこんなに近くにあるが嬉しいのです。



ヒメサユリ

ヒメサユリは新潟、山形、福島、宮城の一部の多雪地帯にしか咲かない、正に、世界にここだけの花です。カサブランカを始め、多くの改良された華麗な百合が出回っていますが「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」の例えはやはりヒメサユリのようなつつましやかな百合を指しているのでしょう。百合の花の中でやはり、自生のヒメサユリの美しさは際立っている気がします。



コシジシモツケソウ

コシジシモツケソウもまた雪と関係がありそうです。鮮やかなピンクの小さな花を無数につけて、房状に咲いています。田んぼの堀脇、山際、沢筋によく見かけますから湿ったところがお好きなようです。あんまり綺麗で、少し頂こうと折ろうとしてもなかなか折れませんし、おまけに採ってきても水上がりがよくなくて枯れてしまいます。「やはり野に置け・・・」ということです。



ネジバナ

ネジバナはどこにでも咲いています。凜としたその立ち姿は貴婦人のようだと思っていたら、都会の芝生の上にも咲き、雑草扱いになっていると聞き、びっくりします。しかし、よく見ると、ラン科特有の形をした小さな花が螺旋階段状にびっしり咲いている様はやはり他にはない美しさです。百人一首の中の「みちのくの忍ぶもちずり・・・」のモチズリはこのネジバナですが、あの振れて咲く姿に、昔の人にもやはり、ただならぬ思いを感じさせたのかもしれない。

訳もなく山を、あるいは里山を彷徨い歩いていると、以前は確かにそこに咲いていた花がなくなって、寂しい思いをすることもあります。しかし、今年もまた、何時も歩く里山の小道で、初めて白くか細いオーレンを見つけましたし、まったく思い掛けないところで黄色いクサレダマの群生に出会ったり、その度に一人ほくそ笑んでしまいます。